

## HIV 初感染による重症咽頭炎から VAHS をきたした一例

永屋 恵子<sup>1)</sup> 横井 秀格<sup>2)</sup> 春山 琢男<sup>1)</sup>  
芳川 洋<sup>1)</sup> 池田 勝久<sup>3)</sup>

1) 順天堂浦安病院 耳鼻咽喉科

2) 杏林大学 医学部 耳鼻咽喉科・頭頸科

3) 順天堂大学医学部附属順天堂医院 耳鼻咽喉・頭頸科

症例は21歳の男性。ウイルス性咽頭炎の診断で入院加療となったが、入院後全身状態が悪化し、骨髓穿刺検査所見により血球貪食症候群と診断された。患者が同性愛者であったことからHIV抗体を測定したが、陰性であり、その後HIV-1 RNA定量よりHIVウイルス感染症と判明し、HIV初感染による血球貪食症候群と診断した。血球貪食症候群（Hemophagocytic syndrome；HPS）とは免疫制御機構の破綻により増殖したリンパ球系細胞が大量の炎症性サイトカインを産生・放出することにより（サイトカインストーム）全身性の高度な炎症を伴う臓器障害を起こす病態であり、骨髓や脾臓、リンパ節における血球貪食像を特徴とする。HPSの中で特にウイルスが原因のものをVirus-associated hemophagocytic syndrome；VAHSと呼ぶ。本症例の経験から、ウイルス性咽頭炎様の症状が長引く時には急性HIV症候群も考慮し、HIV抗体のみならず、HIV-RNA量を測定する必要があると考えられた。HIV感染症に関連したVAHSは、海外においては報告が散見されるが本邦ではまれであり、特にHIV感染症の初発症状としてVAHSを呈した報告は、我々が渉猟し得た範囲で4例しかない。今回我々は、HIV感染症の初発症状として、VAHSを呈した一例を経験したので報告する。